

厳浩が広東・香港・澳門大湾区シンポジウムに登壇

EPS ホールディングス㈱代表取締役会長兼益新集団 CEO の厳浩が 4 月 9 日、東京にある帝国ホテルで行われた広東・香港・澳門(マカオ)大湾区シンポジウムに出席し、また、スマートヘルス分科会ではパネリストとして登壇し、EPS グループの中国事業及び広東・香港・澳門大湾区における種々な実践事例を紹介しました。益新集団がこれまでに日中両国の健康産業のリソースを繋いで中国において新薬の研究開発、製品の導入、インキュベーション並びに自前の製造・販売、さらに越境 EC への参入例などを披露し、大湾区が優れた条件が揃っている経済地域として日中協力の良いプラットフォームになり得ることを力強く唱え、また、成功のカギは如何にウイン・ウインの仕組みづくりができるかにあると指摘しました。



厳浩(右より 3 人目)がスマートヘルス分科会でパネリスト発言を(右端は蔡冠深氏)

今回のシンポジウムは広東省人民政府、香港特別行政区政府および澳門特別行政区政府の合同で主催され、中国駐日大使館程永華大使が開会の辞を述べられ、香港特別行政区林鄭月娥(キャリー・ラム)行政長官、広東省馬興瑞省長、澳門特別行政区政府陳海帆政務法務長官がそれぞれ基調講演を行いました。また、広東香港澳門大湾区企業家連盟蔡冠深(ジョナサン・チョイ)主席、日本貿易振興機構佐々木伸彦理事長、経済産業省関芳弘副大臣がそれぞれ挨拶されました。参加者が 1,200 名以上も集まる会場には熱気が溢れ、日本経済界が中国大湾区の発展にかなり注目していることの現れです。

益新集団広報渉外チーム
2019 年 4 月 11 日